

SPRING  
2022  
[御旅屋人]

# 御旅

タカマチで生きる人をほんわかとお伝えするMAGAZINE

タカマチで生きる人をほんわかとお伝えするMAGAZINE

「オタヤジン」創刊号!

# 屋人

「オタヤジン」創刊号!

SPRING  
2022  
[御旅屋人]

グルマン  
#タカマチ 健啖家 マガジン

# OTAYAZINE



# 1



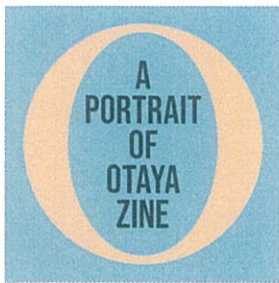
# OTAYAZINE

グルマン  
#タカマチ 健啖家 マガジン

© #御旅屋人 #たかまち #勝手に観光大使 #高岡 #富山 #北陸 #オタヤジン

#御旅屋人 #たかまち #勝手に観光大使 #高岡 #富山 #北陸 #オタヤジン ©





## 御旅屋人の肖像

写真 田川 紘輝  
Portrait by Hiroki Tagawa

編集 上野 賀永子  
Edit by Kaeko Ueno

スタイリング 中尾 賀之  
Styling by Masayuki Nakao

## いつでもスタートが切れる。 それを証明したい。

高岡に育って、いいところも悪いところも見えてきました。自分はこの土地が大好きで、ここでお店をしようとして懸命頑張ってきました。頑張れば頑張る程、コロナであったり、様々な要因を含めた壁にぶつかり、やってもやっても潰される。それでも前に向かっていくしかありません。

僕の母親が倒れ、子どもを育て、仕事をし、家庭でも母の役割をしました。店名である「マシューマン1208」は「子どもは神様の贈り物ですよ」という意味で、息子の誕生日をつけました。子どもが大学を卒業する時「僕はお母さんの役割しかあなたにできなかったけれど、今後お父さんを見せます」と、お店を開く意気込みを見せたんです。いつでも

スタートが切れることを証明したかったから。他人ではなく、僕自身が原点に戻って、今までの自分自身を変えることを始めました。その姿を見て、人が「自分も変わろうかな」と思うかもしれない。

この土地が大好きなんです。まだ見ることもない子ども達の為にも、僕は色々なことをやり通します。皆さんと一緒に明るい未来のある高岡をつくり、高岡の素晴らしさを世界に示していきたいんです。だから高岡は、もっとジェントルマンが多い街にならないといけないですよね。色々な人の助けを借りて、土地の人にも感謝して、先人達の思いを胸にあらゆるところに自分の思いを貫くように、情報を発信をしようと思っています。

# 中尾 賀之

[Matthew Maman 1208] オーナーマスター

### 中尾賀之さん

アンティークな物を集め70年代80年代中心のレコード・カセットテープ・CDを聴かせてくれるバー「Matthew Maman 1208」のオーナーマスター。お茶目さとダンディーさを併せ持つ、自他共に認める、高岡大好き人。



中尾賀之さんに会える場所

Matthew Maman 1208

富山県高岡市末広町 14-45

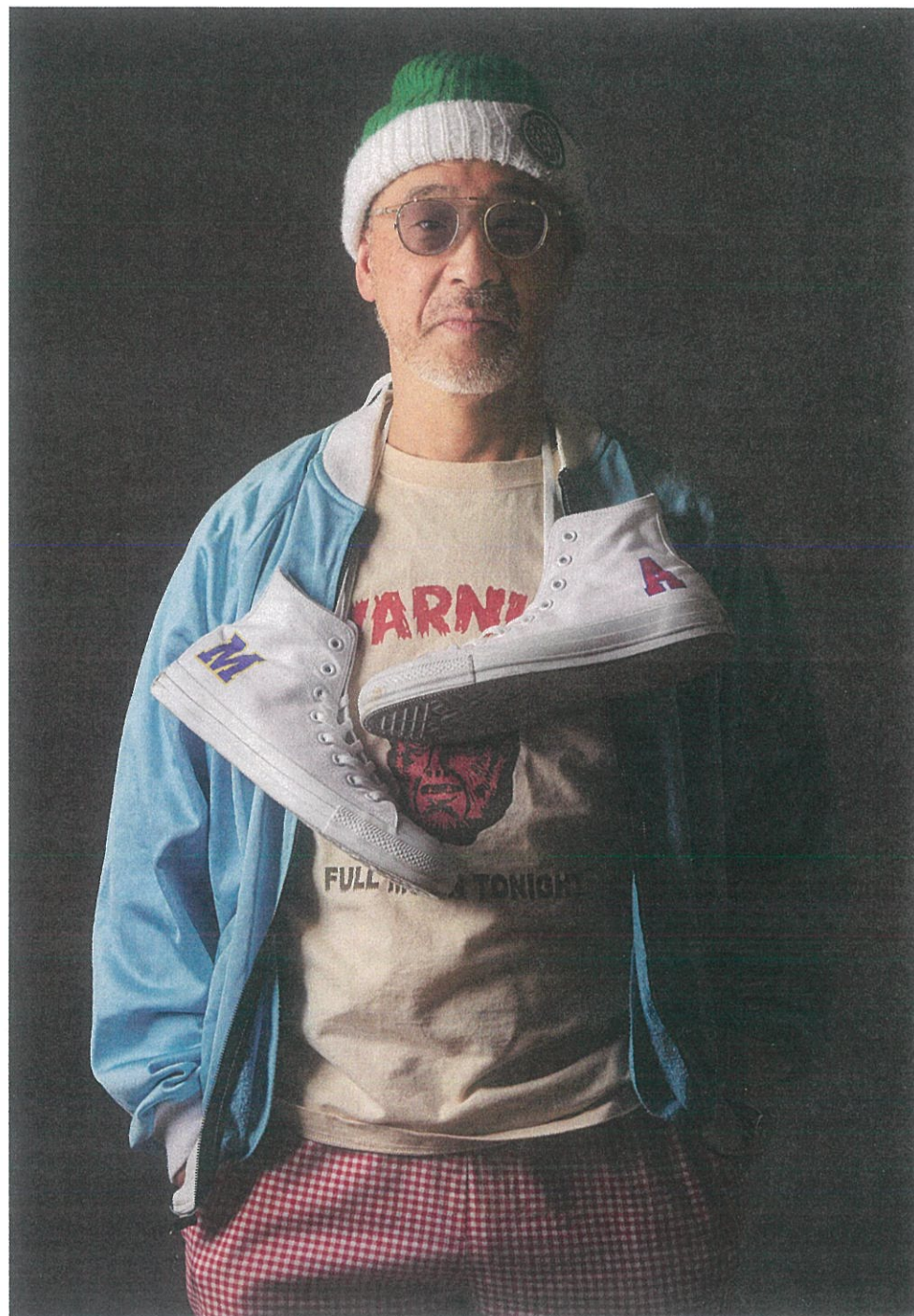
TEL : 0766-95-3838

10:00 ~ 14:00 月火金土日

モーニングランチあり

19:30 ~ 木曜定休

☑ @matthewmaman1208





## 夜の目コラム

# すわる。夜に、

割烹寿文までの道

文 上野 賀永子  
Text by Kaeko Ueno

冷たい空気が肺に届こうとしている。  
陽が傾き、やがて暗く足元見えなくなる頃、  
路地の突き当たりで灯を確認する。  
安心して歩みを緩めると、大きな牡丹雪がコートの腕に  
次々と降りては溶けていった。  
街に、暮らす人がいる。街で、働く人がいる。  
街が、迎える人がいる。

私に必要なものは、どこであらうとただ笑い合える場所。  
ひとりでもいい。  
カウンターにすわり、初めの一品が目の前に置かれると、  
店主の一言が温もりをもって届く。  
私の中で、表情にはでない小さな笑みが、挨拶をする。



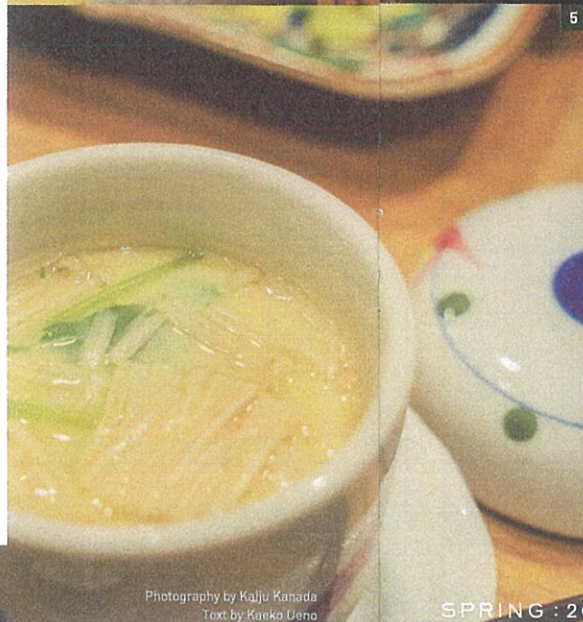
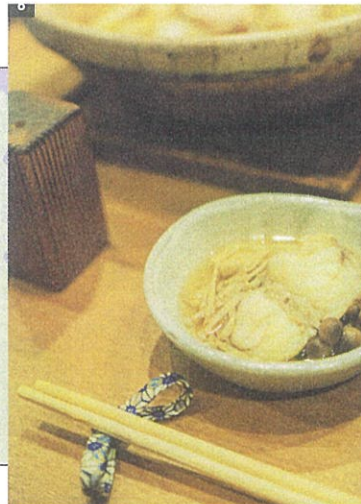
## 割烹寿文

富山県高岡市末広町 1010-15  
18:00 ~ 22:30 (L022:00) 不定休  
TEL : 0766-21-9555  
hisafumi-takaoka.com

「時代がバブルで親父の羽振り  
良かったから料理人になったん  
だよ(笑)」と虎河豚を捌きながら勢  
いよく話してくださったのは「割烹  
寿文」店主の宮谷泰三さん。心を  
ゆつたりと開かせてくれる気さく  
さが、人気の一因だ。「元々料理  
のお店にいます、職人になりた  
かったんです。料理人ですね。こ  
ちらに戻ってきた時に、それでは  
商売を回せない地方だと気づきま  
した。この技術をベースにビジネ  
スマンに転身しないと綺麗事では生  
きていけなかった」と泰三さん。お  
父様は職人気質の方で「間違いない  
お店」を作ってきたという。泰三さ  
んは、そこを補うように商売をし  
ようと決めたが、実はこれが一番難

## 「間違いない」を 守り続けたい。

しいことだった。  
泰三さんは、顧客満足度を維持  
しつつ、適正なものを適正な価格  
で提供し続けた。お店の名前がお  
客様の中に残らなくても「富山で  
食べたものが美味しかった」とい  
うエピソード記憶から、接待で何  
度も来てくれるお店として定着し  
ていった。取引をする接待側のお客  
様の満足は、接待される側のお客  
様の満足にもなった。「お客様自身  
がお客様をもてなしているんです」。  
「幹事さんの苦労して実はお店選  
びではなく、お側との調整です。  
そこでお任せくださいと言え。お  
客さまの負担が減らせて、安心し  
て選んでもらえることが一番です」。  
店に入ると、カウンターには大  
抵知り合いがいる。地元民が一人で  
訪れても、変わらず「間違いない  
お店」なのだ。



①夕暮れ時、御旅屋の入り口。 ②虎河豚のてっさは見た目美しく、食べても旨い。 ③鮫鱈鍋の季節だった。くつくつと火が通り始めるとなんとも言えない香りが広がり、食欲をそそる。 ④阿もしなくても絶妙なタイミングで運ばれてくるコース一式。 ⑤ちょっと一休みの茶碗蒸しのはずなのに、どんどん着がすすんでしまう！ ⑥お鍋も終盤になると、泰三さんが具材を足してくれたり、うどんを入れてくれたりする（いつまでも終わらないパターン）。 ⑦包丁は研がれて短くなっている。名前入りなのがカッコいい。 ⑧店主、宮谷泰三さん。



# TAKAMACHI #NIGHT OUT

#タカマチ #夜遊び

御旅屋には多くの小道がある。一本一本の路地には歴史的なゆかりがあり、古い地図と照らし合わせてもそのままであることがわかる。今回ご紹介するのは「割烹 寿文（ひさふみ）」。細い道をぐんぐん入っていくと突然現れる、知る人ぞ知る「間違いないお店」である。店主、宮谷泰三さん。この人がいるから、私たちは寿文へ足を運びつづけるのだ。



Photography by Kaiju Kanada  
Text by Kaeko Ueno

SPRING : 2022



## 編集後記

# OTAYAZINE

〔御旅屋人〕

1

うれしい、おこる、かなしい、たのしい。そんな、人間の感情のこと。あるく、すわる、みまわす、とじる。これらは、人間の行動のこと。ふたつの間には一人ひとりが持つ異なる経路があって、私たちはきつとそれぞれの道を巡りながら高岡という街で生活しています。

「目立たなくても足をつけて働いている人がここに!」「こんなに楽しいところがあるなんて!」大学で外に出て、仕事をして、それぞれの意思で高岡に戻った編集部の面々は、取材しながら目から鱗の状態だったのです。

ここまで、名称は変わりながらも数年にわたり話し合ってきたことが、ようやくひとつの形になりました。『御旅屋人』第1号が、皆様にとって心踊る冊子になることを願って。

Editor / Publisher  
上野 賀永子 Kaeko Ueno

Art Director  
カイジウインク Kaijuinc.com

Cover Photographer  
田川 紘輝 Hiroki Tagawa

発行日 2022年3月10日  
編集 御旅屋人編集部  
印刷 キクラ印刷

Publishing  
高岡市中心市街地活性化協議会

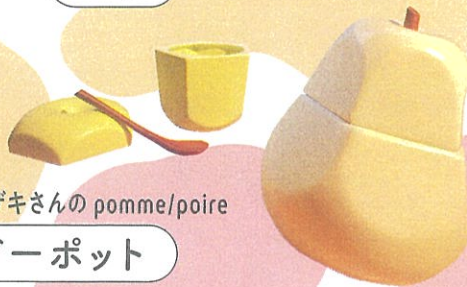
〒933-0029 高岡市御旅屋町101  
御旅屋セリオ6階  
(末広開発株式会社まづくり事業部内)  
TEL : 0766-20-0555

あの人、あの一品。

芸文ギャラリー スタッフ一年目



ユウ さんのおすすめ



タツヤオカザキさんの pomme/poire

シュガーポット

い こでニコニコで出迎えてくれるユウちゃん。これ、とてもオススメなんです。と見せてくれたのは「pomme/poire シュガーポット」。セラミックデザイナー・岡崎達也さんによるプロダクトである。洋ナシとリンゴの形をした可愛らしいシュガーポットで「見た目の可愛さもあるけれど、枝の部分が木のスプレーになっていて、機能性に優れていて、実用的なところもとても気に入っています」とユウさん。こういった色が家の中にあると明るい気分になりますよね。岡崎さんとも高岡にゆかりがある方だ。私

が忘れられない作品は、2015年に高岡ラフ・フットウェア・デザイン・コンペティションで奨励賞を受賞した「ideal」。抜け殻がたまらなく素敵で、磁器で制作された大小様々なサイコロ。消えてしまいうちに美しい色をしていて、サイコロの目の部分は海になっている。その世界観は、本人に会った時に、作家自身に重なった。

インスタ活用のすすめ

「OTAYAZINE 御旅屋人」では日々のタカマチをインスタグラムでもお知らせしています。



111 アカウントはこちら 111  
@otayazine

冊子「御旅屋人」は、タカマチで楽しく頑張る人々を、インスタの「OTAYAZINE」では、タカマチがふと見せる一瞬や混沌とした情景を、それぞれ切り取りお届けします。

#御旅屋人 #たかまち #勝手に観光大使 #高岡 #富山 #北陸 #オタヤジン などのハッシュタグをつけて自身のアカウントから、あなたの好きなタカマチの景色を投稿してください。徘徊して見つけたら、公式からリポストさせていたくことがございます。ご了承くださいませ。タカマチ好きで、自分のオススメを紹介したい! という方は是非ご連絡ください。これから「OTAYAZINE 御旅屋人」をどうぞよろしく願いたします。

文 上野 賀永子  
Text by Kaeko Ueno

この人、この一曲。



「あそびとビル」共同経営者

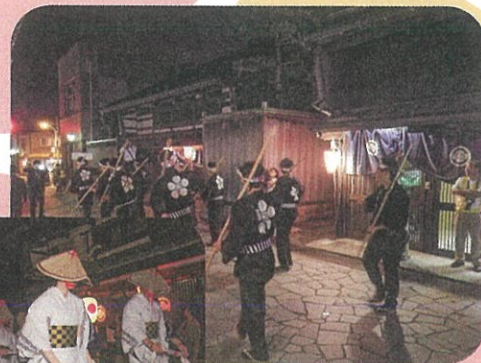
ヒラオカのっぱ

さんのおすすめ

高岡 鋳物作りの作業歌

弥栄節

やがえふ



御印祭での弥栄節。

東京生まれ、東京で育ったのっぼさん。旅で高岡を訪れ、工芸イベントで知り合ったデザイン事務所への就職がきっかけで、初めて自分の意志で地元を離れ、高岡にやってきた。事務所が同じビルにあったので、私たちは真夜中までよく一緒に仕事をしてきた。大きな目で真っ直ぐにものを見る人だ。いつも笑顔でハキハキしているから「明るく楽しい人」で通用するのっぼさんは、その実、とても繊細で、正直に学ぶ人でもある。今ではすっかり高岡のことを把握し、学生たちにも頼られるお姉さんの存在になった。

「のっぼがおすすめする曲ってなに」と訊くと、意外や意外! 「弥栄節(やがえふ)かな」と返ってきた。「お祭りの日が決まっているって衝撃だったんですよ。それまで、お祭りって〇月の第〇週というものはなかったから」。確かに……。高岡生まれ、高岡育ちの私は納得した。御印山祭りは5月1日で、御印祭(こいんさい)は6月19・20日。平日だった、学校が半休になるのが普通だと思っていたが、全国はともかくではなかったらしい。

「自分が仕事で関わっている鋳物のお祭りだということに興味があって、行ってみよう」ということになったんです。弥栄節(やがえふ)は、鋳物師



ヒラオカのっぱさんに会える場所

あそびとビル  
富山県高岡市末広町 1010-34  
asobito-building.com

が地金を溶解するとき歌われた作業歌だ。全体のリズムを整えるために誕生したという。今でも町流しの時には保存会の方々や伝統産業青年会、地域の小学生、保育園児まで参加する。

「つまりは、保育園の時に弥栄節(やがえふ)の練習時間があつたよ」と伝えたら「外から見たら、それが面白いんですよ」と言ってくれた。そうなのか! これは地域特有のものだったのだなあ……。物心もつかないうちに体に刻み込まれた記憶というものはすごい。そうやって文化は守られてきたのかも知れない。

「私、自分の誕生日に何の思い入れもなかったんですけど、御印祭(こいんさい)の日の誕生日で、少しその日が誇らしくなりました」。

弥栄節(やがえふ)って改めて聴くといいものだ。私はこれからこの歌を聞くのっぼさんの誕生日を思い出すようになるだろう。

#TAKAMACHI  
COLUMNS STREET

高岡を楽しみたい人々による連載コラム第一弾! いとおしさを込めて私たちはこの場所を「タカマチ」と呼ぶが、実はどこからどこまでが「タカマチ」なのかは定かではない。このページでは、皆さんの好きなものをご紹介します! もちろん持ち込みも大歓迎!

東

京で生まれ、東京で育ったのっぼさん。旅で高岡を訪れ、工芸イベントで知り合ったデザイン事務所への就職がきっかけで、初めて自分の意志で地元を離れ、高岡にやってきた。事務所が同じビルにあったので、私たちは真夜中までよく一緒に仕事をしてきた。大きな目で真っ直ぐにものを見る人だ。いつも笑顔でハキハキしているから「明るく楽しい人」で通用するのっぼさんは、その実、とても繊細で、正直に学ぶ人でもある。今ではすっかり高岡のことを把握し、学生たちにも頼られるお姉さんの存在になった。



## 2

## 3

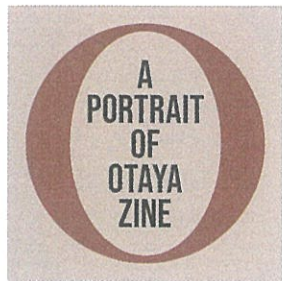
4

5

7

昼の目コラム





## 御旅屋人の肖像

写真 田川 紘輝  
Portrait by Hiroki Tagawa

編集 上野 賀永子  
Edit by Kaeko Ueno

## ジャッジをやめたら、可能性が広がった。

ヨガを始めたのは20代の頃。好きすぎて深めたくなくて、7~8年前に仕事をしながら講師の資格を取得しました。当時は、教えるより自分を整える部分が大きかったと思います。体を壊した時、心が疲れた時にヨガが自分を助けたんですね。

コロナ禍で世の中の動きが止まり、自分の中もシーンとなりました。色々なことを考える時間があって、それまで不自然だったものがたくさん浮上してきて。「生き方はこれでいいのか?」「社会って本当に自然なのか?」と考えました。消費ばかりしてきて、命に関わるようなものを生み出せていないと感じたんです。食べるものひとつ、着るものひとつ。自分自身が生産したり、創

造していないことを体感しました。

「とにかく何か生み出さないと」と、すぐにできることから始めようと思いました。これまでの人生で学んだことや役立ったこと、自分のために身につけたことを出そう!それがヨガだったんです。人前で何かをすることは緊張するけれど、そういう思考を働かせないことにしました。何もジャッジせずに、まずやろうと思って。

自分自身をジャッジすることやめる。人にもしない。自分も人もゆるす。無理しないことで可能性が広がりました。ヨガをやっていると未だに発見がありますし、果てがなく面白いんですよ。「これってすごいよ!」って人に伝えられることがありがたいなと思います。

# 堀内 美里

ヨガレッスン・インストラクター

### 堀内美里さん

高岡市出身。大学でインド思想を学び、大学院で美術史を研究。高岡市美術館勤務等を経て、現在はオタヤ開発㈱で御旅屋セリオのビル運営に携わる。その傍ら1970西織ビル等でヨガレッスンを不定期に開催する。



堀内美里さんに会える場所

1970 西織ビル  
富山県高岡市守山町35  
1970nissenbuilding.wixsite.com

